

ブルーカーボン推進試験事業

資料4

【目的】

留萌管内ブルーカーボン推進検討協議会
留萌市地域振興部農林水産課

政府が2050年までに二酸化炭素（CO₂）をはじめとする温室効果ガスの排出を全体としてゼロにするカーボンニュートラルを目指すことを宣言している中、当地区においても留萌港内水域を活用したコンブ養殖によるCO₂吸収源対策（ブルーカーボン）、あわせてウニ養殖など水産業の振興に寄与する取り組みの推進に向けた社会試験を行い、事業化の可能性を探るもの。

【概要】

実施時期	令和4年度～
実施場所	留萌港内水域
実施主体	留萌市（一部東海大学との共同事業）
実施内容	コンブ養殖試験およびウニ養殖試験 コンブ種苗糸作成、養殖施設作成・設置 コンブ生育調査、CO ₂ 吸収量調査 ウニ歩留調査
事業費	6,400千円
財源	コロナ対応地方創生臨時交付金

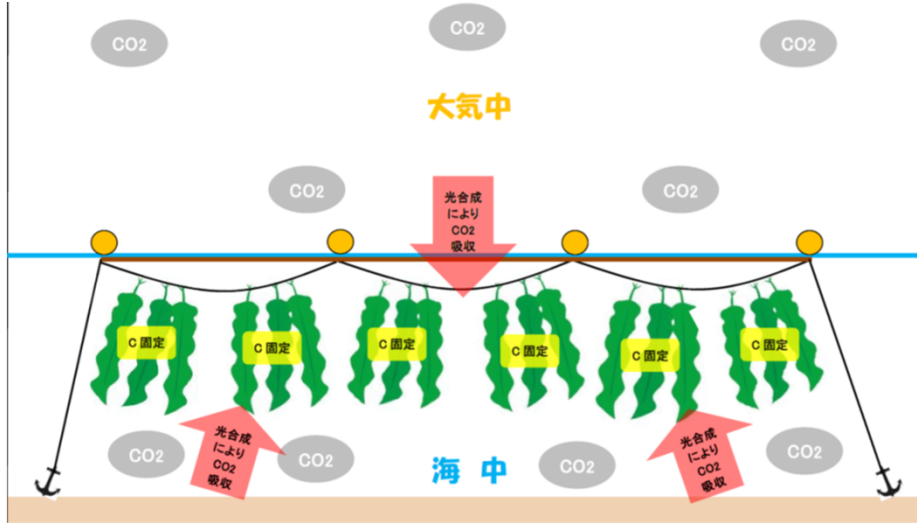
<事業費内訳一覧>		
品目	内訳	金額(円)
コンブ養殖資材費	幹縄300m、延べ縄500m、60kgアンカー10基、尺玉20個、他資材	3,000,000
種苗糸作成消耗品	各種消耗品	400,000
種苗糸作成備品	顕微鏡、滅菌機、他	1,500,000
ウニ移植経費	1,000kg採取（ダイバー料他）	1,000,000
調査消耗品費	各種消耗品	500,000
計		6,400,000

【効果】

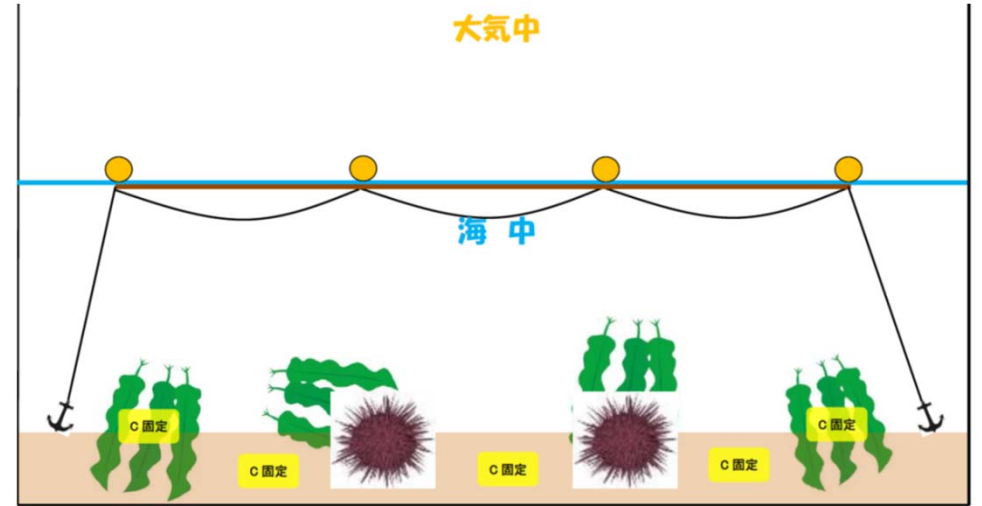
- ①海中におけるCO₂吸収と炭素固定による地球温暖化対策に寄与および海洋環境改善に伴う漁業資源の維持と資源再生産環境の確保。
- ②ウニ養殖の一体的な実施による漁業生産高の増加。
- ③カーボンオフセット制度活用によりクレジット売却による事業費財源の確保。

【ブルーカーボンのサイクル】

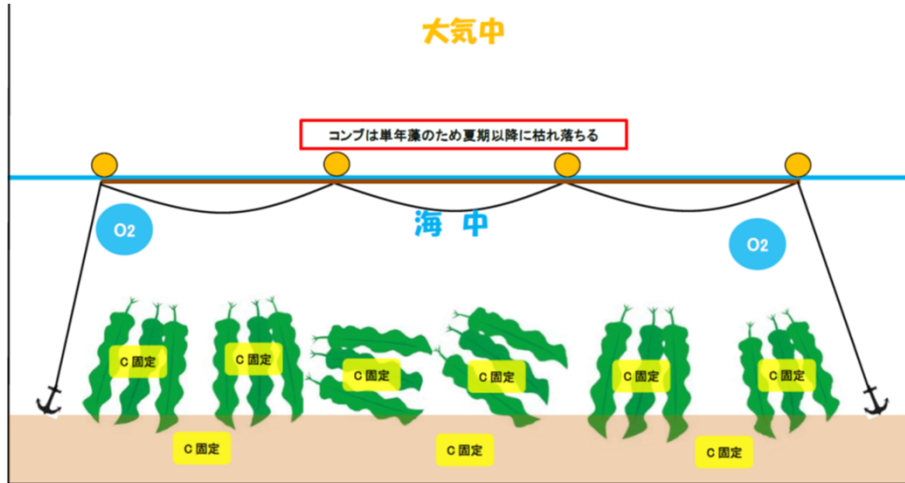
①養殖コンブによる光合成により大気中・海中のCO₂吸収、C固定



③コンブ水溶化前にウニ摂餌し老廃物として海底土中でC固定



②単年藻のため夏期以降枯れ腐敗し土中にC固定



【ブルーカーボン実施箇所】



施設設置
(R4. 10. 14)





コンブ種設置
(R4. 11. 8)

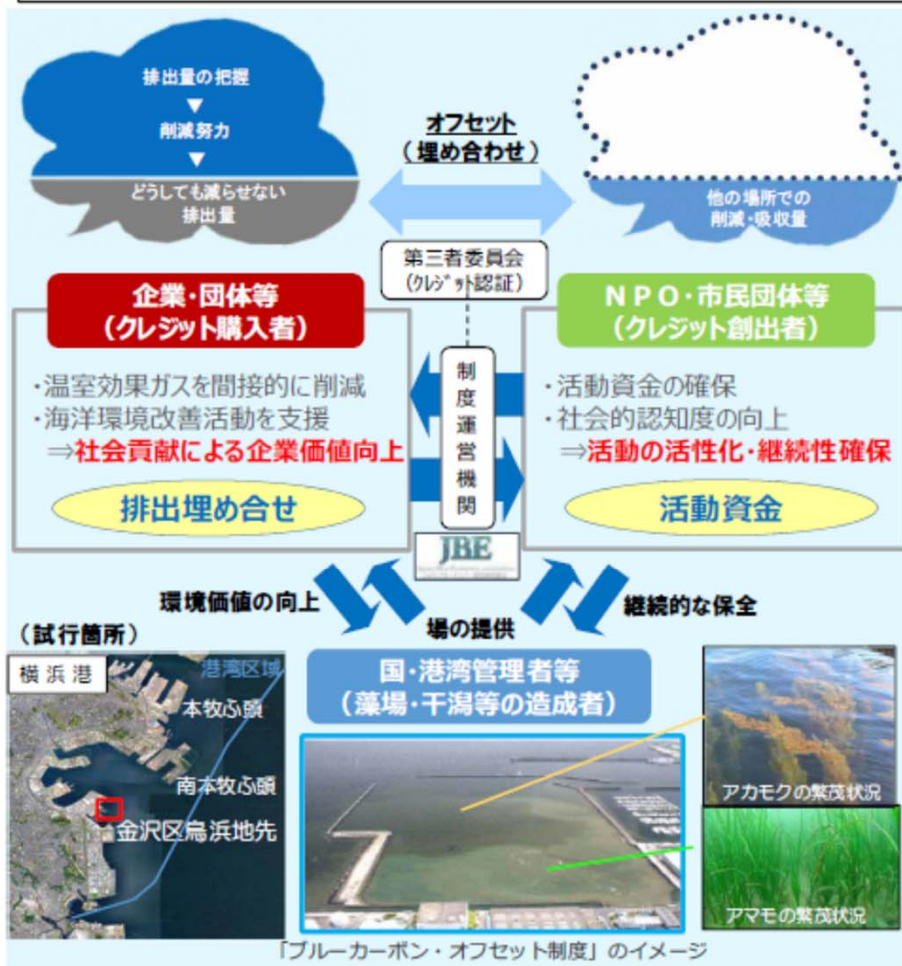






ブルーカーボン・オフセット制度について

2050年カーボンニュートラルの実現に向けて、ブルーカーボン生態系を活用した吸収源の拡大を図るため、藻場の保全活動等の実施者により創出されたCO₂吸収量をクレジットとして認証し、CO₂削減を図る企業・団体等とクレジット取引を行う「ブルーカーボン・オフセット制度」の構築を目指す。



ブルーカーボンとは

- 2009年の国連環境計画 (UNEP) の報告書において、海洋生態系に取り込まれた炭素が「ブルーカーボン」と命名され、CO₂の吸収源の新しい選択肢として提示。



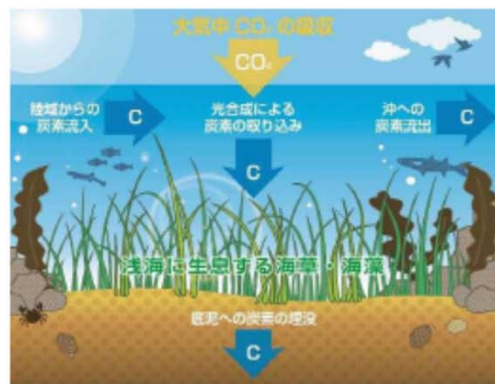
国連環境計画 (UNEP) 報告書「ブルーカーボン」



アマモ



干潟



ブルーカーボン生態系による CO₂ 吸収の仕組み (概念図)
出典: JBE資料